教育研究業績書

2026年11月09日

所属： 教育学科　　資格： 講師　　氏名： 青井　郁美

研究分野	研究内容のキーワード
保育学，生態心理学，発達心理学	手の動き，乳児，アフォーダンス，環境
学位	最終学歴
博士（教育学）	神戸大学人間発達環境学研究科博士課程後期課程

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.幼稚園教諭専修免許状	2022年3月	
2.学校司書教諭	2001年12月	
3.養護学校教諭一種免許状	2001年3月	
4.小学校教諭一種免許状	2001年3月	
5.幼稚園教諭一種免許状	2001年3月	
6.保育士資格	2000年12月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.大阪保育研究所主催　劇café 企画運営	2025年4月～現在	大阪保育研究所にて、生活発表会や運動会で行った劇やごっこあそびの実践を安心して報告し合う会を今年度始めた。特に実践1～3年目の若い先生が中心となって、互いの実践を安心して参加できるように見合うことを中心にし、動画視聴後はおしゃべりタイムを設けている。
2.社会福祉法人共同保育の会　法人研修会講師	2023年11月	保育園で過ごす乳児が、物と関わることに付随して経験していることやその諸相について、学術的知見を中心に講話を行った。保育室の環境内で動く乳児の姿について動画を見ながら伝えることで、乳児自身がみずから環境に関わるということが、保育環境内で保育士の援助のもとで実現されている事実について再認識することとなった。
3.社会福祉法人あおば福祉会 保育園園内研修会 講師	2023年9月～現在	身ぶり表現やごっこあそびしながら絵本や自然等の環境を理解していく過程の重要性について実践と理論を含めて講話したり、予行や発表当日のごっこあそびや劇あそびの実践を見た上で具体的な助言を行ったりしている。また、乳児の自発的なからだの動きと環境についての学習会をしている。
4.大阪保育研究所　2歳児研究会	2022年4月～現在	実践者の2歳児1年間の保育記録をもとに、2歳児が何かになってからだを動かすということの変容過程について、「環境」「身ぶり表現」「絵本」「道具」の4つの視点から論議している。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
1.博士論文 乳児の自発的な手の動きと環境：群生環境からのアプローチ	単	2024年3月	神戸大学全183頁	乳児の自発的な手の動きを環境との出会い方の調整であるととらえ、日常場面において乳児がどのような物に触れ、物に触れることに伴いどのような出来事を経験しているのか、また他者はいかなる環境調整を行うのかについて検討した。乳児と物に触れる手の動きの諸相が、発達に伴いどのような経緯をたどるのかについて横断的縦断的に分析したところ、乳児が物に触れるという出来事に付随して、運動的、言語的、社会的等の多様な経験をしていることが示唆された。また、乳児の移動・姿勢の発達、乳児の情動の状態等、乳児自身のある状況によって、周囲の大人が乳児の物との関わりの機会を調整していることが示唆された。
3 学術論文				
1.0歳児クラスの乳児の物との関わり方はいかに変化するのか―物・出来事・大人の関わりに着目して―（査読付き）	共	2024年12月	保育学研究第62巻第2号pp43-54	保育園で過ごす０歳児クラス６名の乳児が、自由遊び時に物に触れた場面を動画から全て抽出した。抽出された場面について、触れた物、持続時間、付随する出来事、大人の関わりについて、移動運動の獲得によっていかなる差異がみられるか分析したところ、移動運動を獲得することにより、触れる物、付随する出来事、大人の関わりが多様になることがわかった。さらに、大人の関わりがあることで、接触持続時間は増加していたが、移動運動を獲得することにより、大人の関わりは減少していた。 著者：青井郁美（筆頭著者）、野中哲士
2.入園直後の0歳児クラスの保育場面において保育士はいかにモノを利用するのか（査読付き）	共	2024年9月	認知科学第31巻3号pp481-495	入園直後５日間の保育園の0歳児クラスで動画観察を行い、保育士が乳児に物を動かして見せたり示したりする場面を全て抽出し、保育士が触れた物、物の利用、接触持続時間、提示時の乳児の状況について分析した。その結果、保育士の提示は頻繁に起こり、観察最終日には、乳児が安定した状況の提示が最も多くなっていた。保育士は、乳児を抱いて物を提示しつつ徐々に姿勢を変え、乳児自らが環境に関わることを促していた。 著者：青井郁美（筆頭著者）、野中哲士
3.座位獲得以前の乳児の自発的な手の動きを契機とした養育者の言動：育児記録における検討 （査読付き）	共	2024年4月	生態心理学研究第16巻pp3-28	家庭で過ごす座位獲得以前の乳児の自発的な手の動きに付随して起こる養育者の言動について育児記録（主に動画）から検討し、そのヴァリエーションを描き出した。さらに、各ヴァリエーションについて事例検討を詳細に行った。その結果、乳児が自発的に手を動かすことを契機として養育者との間で豊かな相互行為が生じていることがわかった。 著者：青井郁美(筆頭著者）、野中哲士
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.乳児の物への接触が持続する場面における環境特性	共	2026年5月	日本保育学会第79回大会口頭発表	本研究では、乳児のモノとの持続的な接触場面における保育士の関わりを描き出すとともに、モノ、場、出来事の特徴を事例検討から探索的に明らかにすることを目的とした。その結果、乳児の持続的なモノとの関わりにおいては、大人の関わりがない場合は、モノそのものや場の特徴に導かれて探索が持続している事例が、大人の関わりがある場合は、モノそのものの探索とともに他者がいるから可能なモノの探索を経験できる機会となる事例が観察された。
2.乳児のモノとの接触とそれに付随する経験の発達的変化：０歳児クラスにおける縦断的観察による検討	共	2026年3月	日本生態心理学会第10回大会ポスター発表	乳児による自発的な周囲への接触に付随する経験について、複数の乳児を縦断的に検討し、乳児間で共通して観察される出来事と、各乳児に特徴的に観察される出来事を明らかにする。その結果、5～12ヶ月児は大半の時間、手で何かに触れており、大人の関わりがある時に、モノに触れている時間は長くなることが観察された。この時期に生じる移動の方法の変化に応じて、「垂直面」「大きなモノ」「組合せ」に触れることが増え「小さなモノ」への接触が減り、触れる対象は多様になっており、モノに触れることに伴い生じる出来事も多様になっていた。
3.物の接触場面において乳児はいつ大人を見るのか？：立ち上がり初期の乳児に着	共	2026年3月	日本発達心理学会第37回大会ポスター発表	保育園の自然な遊び場面において，0歳児の乳児がモノに触れている時にどのような場面で大人を見るのかについて検討した。乳児の立ち上がり初期には，遠くで動いている他者を見る事例が多かった。また、近接した保育者の顔が立位の乳児と位置的に近い場合にも，

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
目して				頻繁に大人を見る事例が観察された。
4.乳児の物との関わりについての縦断研究―姿勢発達に伴う変容過程―	共	2025年3月	日本発達心理学会第36回大会ポスター発表	保育施設の０歳児クラスで録画されたビデオを分析し、ある乳児１人が環境内の物に触れる出来事を特定し、臥位からつかまり立ちまでについて、縦断的に検討した。その結果、姿勢発達に伴い保育士の関わりが変化することが示唆された。 発表者：青井郁美、野中哲士
5.Infants’ manual contact with environmental objects and contingent experiences	共	2025年2月	シンポジウム Adaptive behavior and its ecological foundations ポスター発表	保育施設の0歳児クラスで録画されたビデオを分析し、乳児が環境内の物に触れる事例を特定した。事例分析を通して、自発的な手の動きに伴う出来事のヴァリエーションを検討した。その結果、乳児と物との相互作用は、直接的な身体的接触だけでなく、保育士との社会的相互作用を含む様々な経験を育むことが示唆された. 発表者：青井郁美、野中哲士
6.Does the involvement of caregivers affect infants’ object play?	共	2024年8月	The 25th PECERA Annual Conference ポスター発表	０歳児クラスの乳児一人について、縦断研究を行った。物に触れた場面を全て抜き出し、姿勢獲得別による物との関わり方の変化について検討した。その結果、ずり這いを獲得することにより、物との接触持続時間は短くなるが、座位を獲得することにより持続時間は長くなる可能性が示唆された。
7.保育士による乳児への物の提示：入園直後の保育場面における検討	単	2024年5月	日本保育学会第77回大会ポスター発表	入園直後の０歳児クラスの保育場面において、保育士が物に触れて提示した場面を動画記録から抜き出し、観察５日間における提示場面の変容過程を検討した。その結果、徐々に提示場面の生起割合が減り、提示した物に乳児が接触する割合が増えていたことが示唆された。
8.乳児が物に触れることに付随して起こる保育士の関わり	共	2024年3月	日本発達心理学会第35回大会ポスター発表	０歳児クラスの乳児が自由に探索して遊んでいる時間に、周囲の物に触れた場面を全て動画記録から抜き出し、乳児が物に触れて遊んでいる時に付随して起こる保育士の行為について検討した。その結果、乳児が物と関わる出来事において、乳児自身の移動運動の発達 に伴い大人の関わり方のヴァリエーションが増えており、乳児自らの状態が、異なる大人との経験をつくりだしている可能性が示唆すされた。 発表者：青井郁美、野中哲士
9.保育士が利用するモノの価値：入園直後の0歳児クラスの観察における検討	共	2023年8月	日本赤ちゃん学会第23回学術集会	入園直後の０歳児クラスの保育場面において、保育士が物に触れて、物を動かして見せたり示したりした場面（提示場面）を動画記録から抜き出し、提示した物やその時の状況について検討した。その結果、保育士は、毎日頻繁に物を提示しており、泣いている時に気そらしの方略として提示したり、移動に向かうために提示したり、他児との関わりの調整に利用したりする等のヴァリエーションがある可能性が示唆された。 発表者：青井郁美、野中哲士
10.保育士が利用するモノの価値：入園直後の0歳児クラスの観察における検討	共	2023年8月	日本赤ちゃん学会第23回学術集会	入園直後の０歳児クラスの保育場面において、保育士が物に触れて、物を動かして見せたり示したりした場面（提示場面）を動画記録から抜き出し、提示した物やその時の状況について検討した。その結果、保育士は、毎日頻繁に物を提示しており、泣いている時に気そらしの方略として提示したり、移動に向かうために提示したり、他児との関わりの調整に利用したりする等のヴァリエーションがある可能性が示唆された。 発表者：青井郁美、野中哲士
11.0歳児クラスの乳児の手が触れた対象物：物と移動に着目して	単	2023年5月	日本保育学会第76回大会	０歳児クラスの乳児が自由に探索して遊んでいる時間に、周囲の物に触れた場面を全て動画記録から抜き出し、触れた物、物との接触持続時間について検討し、移動運動の獲得による発達的変化について検討した。その結果、移動を獲得することにより、物との接触持続時間は、短くなり、触れる対象物が変化していく可能性が示唆された。
12.発達カスケードの示唆：変化と経験の関係の非自明性	共	2023年3月	第34回日本発達心理学会シンポジウム	乳児の手と物との接触場面の発達的変化について、保育場面で見られる自然な乳児の物とのインタラクションの具体的な出来事から検討した内容を事例から報告した。 話題提供者：新屋裕太、 西尾千尋（企画）、青山慶、 青井郁美、 指定討論：麻生武、野中哲士（企画）、司会：山﨑寛恵（企画）
13.乳児の手の動きに伴	共	2022年3月	第 9 回生態心理学	乳児が周囲の対象に向けて手を動かした時に伴う養育者の言動につ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
う養育者の言動			会大会オープンフォーラム	いて、育児記録における動画記録から検討した。その結果、乳児の誕生直後から、対象世界の関わりについて、養育者が多様に関わっている可能性が示唆された。 発表者：青井郁美、野中哲士
14.座位獲得以前の乳児が日常場面において自発的に手を動かして触れた環境内の対象	共	2021年3月	第8回生態心理学会大会オープンフォーラム 生態心理研究第13巻（1）pp63-66	誕生後から座位獲得までの乳児１名の育児記録から、触れた対象物を記述し、姿勢、環境に関わる手の動きの開始場面、環境に関わる手の動き、手の動きにより環境に起こること、他者の関わりについて分析した。その結果、自発的な手の動きが、環境との関係形成として記述する可能性があることが示唆された。 発表者：青井郁美、野中哲士
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.育児記録から探る赤ちゃんにとっての行為の意味		2024年5月	大阪保育研究所紀要 保育・学童保育の研究16巻pp24－41	０歳から約１年間の育児記録から、模倣について記述されているエピソードを抜き出した。乳児が他者だけでなく、周囲の物や出来事を模倣している事例が観察された。また、乳児が模倣するだけでなく、周囲にいる他者が乳児を模倣する状況が観察され、それらの事例について事例ごとに分析を行いその変容過程を分析した。
2.梅根悟 ： カリキュラム改革と世界教育史	共	2022年6月	研究論叢第28巻pp115-126	『Educational Progressivism、 Cultural Encounters and Reform in Japan』（山﨑洋子・久野弘幸　編）の第８章を翻訳した。（pp117-119 Ⅱ梅根の人生と経歴　第二次大戦後の大学の経歴、Ⅲカリキュラム改革とコア・カリキュラム運動　担当） 著者：中野光、山﨑洋子、加藤優汰、青井郁美(他３名)
3.進歩主義,新教育,文化的邂逅 ：『日本における教育的進歩主義,文化的邂逅と改革』序章	共	2022年2月	教育科学論集第25巻pp76-72	『Educational Progressivism、 Cultural Encounters and Reform in Japan』（山﨑洋子・久野弘幸　編）の序章を翻訳した。(pp67-68　Ⅰはじめに、Ⅱ日本における進歩主義と新教育の概念、Ⅲ文化的邂逅　担当） 著者：山﨑洋子、青井郁美、横田慧、川地、　亜弥子
4.座位獲得以前の乳児が日常場面において自発的に手を動かして触れた環境内の対象	共	2021年5月	生態心理学研究13（1）pp63－66	座位獲得までの生後０か月から７か月頃までの乳児の育児記録をもとに，日常生活において，手が自発的に動いて触れた環境対象についての記述から分析し，対象と手の動きの関係について明らかにしていく。
5.5歳児における相手の気持ちや考えを想像する力を考える：遊びの中の想像する力を捉える	単	2014年3月	大阪教育大学附属幼稚園紀要第25巻pp46-55	「きく力」を育てる」という研究テーマに基づき相手の思いを想像することについて事例から考察した。テントウムシ、大型積木、絵本から始まった5歳児のごっこ遊びを事例分析し、共通経験や類似経験、イメージの共有、自分を表現する、という視点から、相手の気持ちを想像することについて検討した。
6.3歳児の友達とかかわる力を考える：生活の模倣をして遊ぶ中で	単	2013年3月	大阪教育大学附属幼稚園紀要第24巻pp9-18	３歳児が初めて過ごす集団生活の中で、周囲の物、場、個々の子どもが家庭で経験してきた事象、及び、クラスで経験した事象を媒介にして展開されるごっこ遊びの中で、緊張や不安を示していた子どもが、自分の思いを存分にあらわす等の変化をまとめた。さらに、保育者の援助を記述し、研究テーマであった「かかわる力」について検討した。
7.継続して遊ぶ中での学び：身近な自然環境とのかかわりを通して	単	2010年3月	大阪教育大学附属幼稚園紀要第21巻pp53-64	５歳児の１年間の実践記録から事例をまとめ，身近な環境に自発的に関わることを支える環境構成や保育者の援助について考察した。事例から，機会を逃さずに行う保育者の働きかけの重要性について示した。クラスの個々の経験を身体的表現によって共有し合う場の提供，その際ありのままの自分を表現し合える雰囲気づくりをすることが保育者の援助として重要であることをまとめた。
8.身体をとおして表現することから深まる学び	単	2009年3月	大阪教育大学附属幼稚園紀要第20巻pp64-76	身近な環境（例えばチョウチョウ、こいのぼり等）と関わったことをからだで表現して遊ぶことを繰り返す中で、子どもたちの興味が持続し、より知ろうとして図鑑や絵本を調べたり、ごっこ遊びに発展したりするなど、遊びに展開が見られていった。これらの遊びの変化を記述し、それを学びとして捉え、５歳児の1年間の経過を報告した。
６．研究費の取得状況				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
1.乳児の物への接触に付随する他者との経験：移動運動獲得期における縦断的検討	単	2025年8月～2027年３月	日本学術振興会 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援	乳児が物に接触することに付随して起こる社会的経験について、這い始める頃の移動運動獲得による乳児の経験の変化について縦断的に検討する。具体的には保育施設0歳児クラスを動画観察し、物に接触することに付随して起こる経験について個人内変化と個人間差異を検討する。特に保育者への視認タイミング、保育士の関わりの有無による遊びの変化、持続的・反復的な物の接触に着目する。
2.乳児の自発的な手の動きの創発：群生環境からのアプローチ	単	2023年4月～2025年３月	日本学術振興会科学研究費助成事業　特別研究員奨励費（DC2）	乳児の自発的な手の動きがいかにして創発するのかについて、群生環境からアプローチした。具体的には、保育施設における0歳児クラスの乳児の動画観察から、乳児の手が環境内の対象に触れるという出来事とそれに知覚する他者の関わりについて検討し、それらのヴァリエーションと変容過程について実証的に明らかにした。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2026年6月～現在	全国保育問題研究集会分科会「認識と表現：文学」世話人代理
2.2025年8月～現在	全国保育団体合同研究集会分科会「絵本・ごっこあそび・劇あそびB」世話人
3.2024年4月～現在	心理科学研究会会員（現在に至る）
4.2023年12月～現在	日本認知科学会会員
5.2023年7月～現在	大阪保育研究所編集委員
6.2023年4月～現在	日本赤ちゃん学会会員
7.2022年12月～現在	大阪保育研究所運営委員
8.2020年12月～現在	日本生態心理学会会員
9.2020年12月～現在	日本発達心理学会会員
10.2016年12月～現在	日本保育学会会員